

9月17日（月）

神 に あ っ て 誇 れ

聖書朗読 詩篇 66：1～12

誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。——主の御告げ—— エレミヤ 9：24

バスケットボール大会の決勝で、延長時間終了間際の最後のスリーポイントシュートが勝利をもたらし、そのことが後々まで語り草になるようなことはあなたにもあるでしょう。

今まで、このような決勝弾の経験をされたことがありますか。そのような経験をする直前は、獅子の檻にいるような、あるいは燃え盛る炉を歩かされているようなもの。あるいはゴリアテと戦う羽目になったようなものではないでしょうか。確かに、私たちは皆、全てがうまく行かず、状況はどんどん悪く希望のないものとなり、諦めの気持ちが去来するものです。しかし、そのような時に神様は逃れの道、助け手、驚くべき出口を差し出してくださるのです。これをお読みの方はぜひともこりことを知ってください。

神様があなたを困難な状況から救い出してくれたのなら、誰かに伝えていただきたいと思います。あなたが会うであろうその誰かは、あなたの話を聴くことを求めているのです。その時こそあなたが神にあって誇るチャンスであり、聴く方の沈んだ魂を引き上げるのです。

万軍の主感謝を忘れずに。
主があなたを助けて下さった時にはいつでも。
あなたの隣人に述べ伝えることを忘れずに。
主があなたにしてくれたことを。

讃美歌 312

祈り 父よ。あなたとあなたが喜ばれるものについて、更に学ぶことを許していただき感謝いたします。

イエス様の御名によって。アーメン。

アルマ・L・ジョーンズ
テネシー州 マッケンジー

今日の力

2012年9月17日～9月23日

翻訳 鈴木淳之介

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月18日(火)

嵐の中であう

聖書朗読 詩篇 95:1~7

主をほめ歌え。主はすばらしいことをされた。これを、全世界に知らせよ。

イザヤ 12:5

私は、マネシツグミが夜中に歌っているのを聴くのが大好きです。ある晩、めったにない強い春の嵐が吹き荒れました。雷はきらめき、稲妻が響き渡りました。嵐の風の中で、マネシツグミは庭にとどまって歌い続けていました。

一夜明けると、朝露の甘い香りがし、陽の光が煌めいて、庭全体がダイヤモンドのように輝いていました。そこにマネシツグミが、桑の木の枝にとまって歌っていました。

歌を忘れてしまうことはあるでしょうか？ 私はあります。人生の「嵐」が私を吹き飛ばしてしまうのです。でも、私たちは力強くならなければなりません。私たちの愛する天のお父様は、私たちに至高善を求めておられるのです。主は私たちから離れず、見捨てないことを約束されました。

どの瞬間にも私たちは嵐の中で平安が掠め取られてしまうのではないかと不安を覚えます。

歌わないのであれば、何が残るでしょうか？ 悩み、心配、頭痛、心痛そして眠れない夜です。

主に向かって歌うことは、私たちの心にバランスを与えてくれます。マネシツグミにできるのであれば、あなたにも私にも出来るはずです。全力で主にしがみつきましょう。

聖歌 480

祈り 神様。感謝をもってあなたに歌い、全力であなたにしがみついていけますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジョアン・クレイトン

ニューメキシコ州 ポーテールズ

9月19日(水)

誓いを守る

聖書朗読 詩篇 116:12~15

主が、ことごとく私に良くしてくださったことについて、私は主に何をお返ししようか。 詩 116:12

私たちは神様に対してその愛と恵みをお返しする術を持ちません。かのフレデリック・レーマンが彼の讃美歌「神の愛」で言うように・・・

私たちはインクで海を満たすことができようか

また、紙で天蓋を造れようか

地上の茎は羽ペンになろうか

すべての人が物書きを生業にできようか

神の愛を上回る著述が成せようか

海を干上がらせることができようか

巻物に全てを納めることができようか

それは空から空へと広がるのだから

それでも、詩篇作者は、私たちが神様の愛に賛美と契約と信心深い生活をもって応えることができることを思い出させます。私たちは、主に感謝に満ちた賛美と祈りをもって呼びかけます。私たちは、神様に対して誓いを守ります。バプテスマの時に立てた従順の誓いを(1ペテロ3:21)。私たちは、私たちの死が神様にとって尊いものとなるように信心深い人生を生きたいと思います。

おそらく、私たちが大きな業を成し遂げることを主に対して夢見る時に、主の親切に対して報いることはできないでしょう。しかしながら、主は私たちに、主と周囲の人々に対する信心深い奉仕を行う生活を呼びかけておられます。私たちは、すべての神の民の前にて賛美し約束します。彼らが私たちの良き働きを目にし、天にいます私たちの父を讃えるために。

聖歌 453

祈り 愛なる神よ。私たちに対するあなたの深き愛に畏敬の念を持って、ここに立ちます。私たちが今日、あなたに報いることを求めるのではなく、あなたの愛を受け入れ、感謝に満ちた奉仕によって応じることができま

すように。

イエス様の御名によって。アーメン。

ゲーリー・ハロウェイ

テネシー州 ナッシュビル

9月20日(木)

恐れるなかれ

聖書朗読 詩篇 118:1~9

主は私の味方。私は恐れない。人は、私に何がきよう。 詩篇 118:6

2001年9月11日、我々の多くは旅客機が世界貿易センタービル・ツインタワーの北棟に突っ込むニュースを聴いて目が醒めました。

私の場合は、職場である学校の校内放送でニュースを知りました。校長先生が私たちに教室に戻ってテレビをつけるように指示し、何が起きているのかを私たちに告げました。テレビをつけたその時に、ハイジャックされた二つ目の旅客機がツインタワーの南棟に突っ込みました。学校中からうめき声が聞こえました。ある人は共に涙し、祈りを捧げる人もいました。しかし、私が見たところでは、ほとんどの人が「沈黙」し、それは学校中を覆っていました。急に、互いの命が価値あるものとなりました。その朝まで価値あるものと思っていたなかったこのことについて生徒たちは戦い、議論を交わしました。教師と管理者の間の不一致やいさかいには、一致と友愛が取って代わりました。

ダビデ王は命を脅かす敵を経験しました。しかし、今日の詩篇には彼の心の態度が示されています。「主は私の味方。私は恐れない。人は、私に何がきよう。」

イエス様の血に贖われ、聖別され、聖霊によって力づけられたクリスチャンとして、私たちの結論は同じです。主が私たちの味方ならば、私たちは恐れません。人は、私たちに何がきよう。敵は、私たちに何がきよう。『主は私の味方。私は恐れない。人は、私に何がきよう。』

讃美歌 84

祈り 主よ。私たちの日々の信仰生活に手を差し伸べてください。恐怖ではなく信頼にあって前進しつつ。

イエス様の御名によって。アーメン。

マシュー・クラーク

ニューメキシコ州 グランツ

9月21日(金)

イエス様の祈禱会

聖書朗読 詩篇 118:22~29

そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。

マタイ 26:30

私は、讃美歌とそれがお気に入りな人を結びつけて考えるのが好きです。みんなそれぞれお気に入りの賛美歌があります。例えば、私の父は「Take Time to Be Holy」がお気に入りです。ロレッタは「Over the Sunset Sea」が、イアンは「Faithful Love」がお気に入りです。人によっては、お気に入りの曲は主の御許に至るまで久しく連れ添うものです。祖母のロッティは「Face to Face」や「Marching to Zion」が大好きでした。新曲を学んで大好きになった時に私は、「私の葬式でこの曲を歌って欲しい」といいます。

イエス様が地上の生涯の最後の晩に何を歌ったのかについて、私は教会学校のクラスで教え、ハレルヤ詩篇を学ぶまでは実際に考えたことはありませんでした。ハレルヤ詩篇は過ぎ越し祭で伝統的に歌われる一連の詩篇です。これは、詩篇 113篇から118篇の6つの詩篇から成り立っており、祝祭時にひとまとめに歌われます。この祝祭においては、ハレルヤは通常大声で歌われます。詩篇 113篇と114篇は食事の前に歌われ、残りの4篇は食事の後に歌われます。イエス様は、ご自身が打ち捨てられる時が来ることを歌い(118:22)、イエス様が必要とされた犠牲(118:27)について歌われたのでしょうか。オリーブ山へと迫り来る十字架と死への道の途上で。これらの詩篇がイエス様にその日にまみえる資格を与えたのです。

讃美歌 310

祈り 父よ。霊と知力を以て歌うことができるよう助けてください。集会の中でイエス様が私を兄弟と呼ぶことを恥じないことを知って、私が安心できるようにしてください。

主の御名によって。アーメン。

バリー・C・ポイナー

ミズーリ州 カークスビル

9月22日(土)

思い出に感謝

聖書朗読 詩篇 119:1~11

どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。 詩篇 119:9

私たちの結婚披露宴は控えめなものでしたが、感謝に満ちたものでした。来賓の方々、私たちの出迎えの列に来てくださり、祝福してくれました。ある立派な婦人が私たちに話しかけて来られて、私にカードを渡してくださり、こう言われました。「あなたに贈り物をするお金はないけれど、あなたの助けになる思いをカードに書きました」。私は急いでそのカードを受け取り、スーツのポケットに押しこみ、彼女に謝意を述べました。数日後、スーツのポケットにカードが入っているのを見つけ、小箱の中に移しました。2年後、引越す際にはそれをゴミ箱に入れそうになりました。

ようやく、私がそのカードの入った封筒を開けました。カードにはこのように書いてありました。「私は、これからあなた方が二人ですること、独りですること、お互いにとっての良き思い出となることをお祈りします」。私はこのカードを鏡のところに置き、その後の引越しの際にも忘れず持って行きました。

私たちの思い出は、お互いにとって意義深いものであり、とても大切なものです。私たちの生活の思い出が素晴らしいものとなり、キリストの証となるように神様にお祈りします。

讃美歌 第二編 41

祈り 主よ。私たちは常にあなたを必要としています。あなたへの奉仕に日々従順に勇敢に務められるよう導いてください。罪を避け、キリスト者の道を、勇気を持って進めるよう助けてください。私たちの近くにいて護ってください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジョージ・F・ドーアティ
テキサス州 タイラー

9月23日(日)

知恵は羽を手入れする

聖書朗読 詩篇 121編

イサクは夕暮れ近く、野に散歩に出かけた。

創世記 24:63

ロバート・フロストがアマーست大学の新入生だった時、彼の上級生たちは彼が時折、森の中に2~3時間ほど姿を消していることに気がつき、彼に問いかけました。「フロスト、森の中を歩いて一体何をしているんだ?」。フロストは典型的なニューイングランド風の簡潔な言い方で答えました。「樹をかじっているのです」。

しかし、この新進の詩人は、単に歩いているだけではありませんでした、彼は思考し、黙想し、瞑想していました。誰からも邪魔されずに。そのために、彼はこのより豊穡な森の世界へ向かったのです。

キリスト者は、神様によって創造された世界のどこにおいても神の“声”を聴くことができます(参照:ローマ1:19-20)。ことに、私たちが神様の臨在と知恵を必要とするのは、1人で歩いている時のように、何にも頼れない時ではないでしょうか。私が思い出すのは、ある親友の生まれたての赤ちゃんが危険な状態にあった時に、一晩中1人で歩いていた時のことです。深い祈りと神様の癒しが、寝ずの祈りをしている私と共にありました。私は願いと神様の力に集中することができました。

それですから、私たちは福音書においてイエス様が一度ならずも「一晩中祈っていた」ことや、日が昇る前に起き出して、父との交わりのために丘に向かって出て行ったことに驚きません。

そして、知恵それ自身が、しばしば隠れた荒野を求める
かしこにて、静かな観想が彼女とともにあり
彼女は羽の手入れをし、それを伸ばす

———ジョン・ミルトン

讃美歌 301

祈り 父よ。私たちはあなたのご臨在を求めます。私たちが今日静けさを見出した時に共にいてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ロバート・W・ローレンス
ネブラスカ州 ヨーク